

令和3年度
第2回香美市まちづくり委員会会議録【概要版】

日時：令和3年11月24日（水）午後6時半～午後8時半
場所：香美市立中央公民館1階大ホール
出席者：まちづくり委員 15名
企画財政課長、企画調整班4名
欠席者：6名
会長：山崎眞幹委員
副会長：中村健委員

協議内容

1.協働と協働のまちづくりについて（協働についての勉強会）

【資料1】協働と協働のまちづくりについて を用いて説明

『1.第2次香美市振興計画と協働推進計画 P2.3』

現在の香美市振興計画で協働について書き込まれているのは、基本方針6の施策63.64のみだが、全基本方針に協働の取組が適用できるように協働推進計画を策定していく点を説明

○P2の図について、スクリーンのもので配られたものが少し違うようだが？

→説明をする際にこちら（スクリーン）の表現の方が分かりやすいかと思い、○で囲んだ部分を吹き出しに変更しましたが、意味は同じです。“みんなで共に進めるまちづくり”の内容を説明したものが、スクリーンでは吹き出しで、お手元の資料は⇒と○囲みで示している。

『2.香美市協働のまちづくり条例と協働（1.協働とは）P4.5』

協働とその関連する用語の定義には諸説あり、できるだけ広義の、香美市としての解釈で資料作成した点を付け加えて説明

○第2次香美市振興計画があって、香美市協働のまちづくり条例と施行規則もあって、香美市協働推進計画をこれから作っていくことが、今期の委員会の主な役割になるということでもよろしかったでしょうか。

→その通りです。執行部も含めてここにいる皆さんとで、香美市の協働というものをつくりあげていきたい。計画ができあがったところで、パブリックコメントで他の市民の方の意見も聞いて、完成させていくことを考えている。

『2.香美市協働のまちづくり条例と協働（2.なぜ協働のまちづくりなのか、3協働の基本姿勢、4.協働の領域と形態）P6～9』

広義で協働をとらえたときに、香美市の振興計画やまちづくり条例・施行規則に基づく、こういった協働があるということをもとめたものであり、あくまでも香美市としての表になる点を付け加えて説明

質問なし

(補足)

今回の資料は、協働推進計画策定の前段階としての定義や理念を示したものであり、これから計画を策定していくときに、今回の基礎や共通認識をもとにして考えていただいたり、何か迷ったときに立ち返って考えたりするものとしてほしい。

なお、情報共有については、協働の前提になるものなので、今後もう少し深く議論していくべきものである。また、今回の勉強会の資料で足りない部分は、今後 計画の全体像をひとつずつ埋めていく作業や、ワークショップで計画に必要な要素を洗い出していく中で深めていきたい。

最終的に市民に協働推進計画を示したときに『これだったら、自分もやってみたい(意見を言ってみよう)』と思ってもらえるものとなることを目指している。

2.第3回以降のワークショップについて

【当日資料1】○(第3回まちづくり委員会以降の)香美市の協働事業一覧でのワークショップについて を用いて説明

① 制度や内規や予算の関係があって、個別に事業内容の議論をしても、どこまで意味のあることになるのか、ずっと疑問に思っている。担当課の職員が我々の意見を聞き入れてくれるのか、それともガス抜きのように言いたい放題言うだけで、それで終わりになってしまうのか、そのあたりを聞きたい。

→・協働事業一覧での担当課職員を交えてのワークショップは、協働事業としてどういうものがあるかの認識を、双方で深めてもらうことを目的のひとつとしている。もちろん、制度に対する改善点などの意見を出していただいて、(その意見がすぐに反映されるといったことは難しいかもしれないが、)今後の制度設計に役立ててもらうことも考えている。

・協働の取組を通じて、これから香美市の価値を高めていこうとしている中で、予算の総額が決まっているとしても、振り分ける際の材料にしてもらえればと考えている。個々の事業に対しての意見がすぐに反映されることはなかなか難しいが、だからといって黙っているのではなく、切り口を変えて、できるだけ皆さんの思いを反映させる方法はないだろうかと模索しており、次回からのワークショップはそのひとつと考えている。

3.ワークショップ班でのフリートーク

今日の勉強会の感想等を自由に話し合ってもらおう。

【各班の発表より】

○健康・教育班

今期初めて委員になった方が多いことから、まちづくり委員会の目的・目標の確認と、この委員会の果たす役割の確認を行い、最終的には、協働推進計画の確定版までもっていくことが分かりました。

そのために、次回以降のワークショップで協働というのはこういった形で進めていった

らよいかを落とし込みながら、推進計画案を固めていくということが分かり、これから具体的にやっていくことが見えてきたのかな、と思っている。

○産業班

出た意見を一つに絞るのは難しいですが、協働がなぜ始まったかを詳しく聞いていくと、行政側としても勝手に決めるのではなく地域の人とともにやっていくべきということで、地域の声も聞いたうえで、行政としてはまとめる役割があるわけで、全員の意見が通るわけではないが、これから今集まっている皆さんで話し合っ、協働・協力するという動きにつなげていくことが分かった気がする。ということで、『難しいですね』という共感がありました。

○建設・環境班

協働推進計画策定にあたってどういった問題があるかを話し合いました。

1.双方の情報共有がされていない

行政がどういった協働をしていこうとしているか、助成金や補助金の情報が共有されていない。また、市民側が要望を届ける手段として、広報やホームページなどがあるが市(行政)に対しての浸透が十分でない。

2.行政職員の意識の改革が必要

市民側に協働をしたい、行政に協力したいという気持ちがあっても、職員側がその姿勢をあまり示さなかったり、議会であったり行政連絡会であったりしても、決まった答えしか返ってこなかったりして、協働しようという姿勢があまり見受けられないことがあり、少し残念である。

閉会

次回以降はこれまでの説明どおり、骨子案の検討と今回フリートークを行った班での協働事業一覧のワークショップを行う旨を説明。

今回は2.3カ月後で年明けになる。